

最古の和菓子

栗、柿、林檎など果物の美味しい季節となりました。

さて、この「果」という字の由来は、「木の上にかくさんの実がなっている様子」を表しているそうです。この文字の上に「くさかんむり」を乗せた「菓」という字も、中国では区別なく「木の実」を意味する文字として使われていたそうです。平安時代になると、小麦粉を練って揚げた唐菓子や飴・餅などが、中国から伝わってきました。さらに、室町時代には、「茶菓子」として出される甘い菓子が作られるようになり、外郎*や饅頭も伝わり、食事以外の間食をさして「菓子」と呼ぶようになったそうです。

そこで、現代まで伝わる最古の菓子について調べてみると、「清浄歓喜団」という奈良時代に伝来したという不思議な名の菓子にたどり着きました。名前からして厳ついお菓子ですが、まるで縄文土器を思わせるような不思議な形をしています。表面は「焼き八ツ橋」のように硬く、上部には八葉の蓮華を



清浄歓喜団(左・右)と餛飩(右上)

示す八つの袋状の結びがあり、中には餛飩が入っています。宗教的な意味合いがあるということで、餛飩には清めとしてハッカや丁子、ニッキ、白檀など七種類の香料が練り込んであります。また、黒地に金色の文字と飾りという菓子を納めた重厚な紙箱が雰囲気を高めています。仏教伝来と共に日本に渡来した唐菓子の一つと言われ、今でも京都の八坂神社にほど近い和菓子の老舗「亀屋清永」**で買い求めることができます(オンライン販売もあり)。また、揚げ餃子のような形に惹かれて購入した「餛飩(ぶと)」は兜を模したもので、千年の歴史を伝える14種の「神饌果」の一つだそうです。

伝統の菓子を味わいつつ、歴史を感じる秋の夜長を過ごしました。

*外郎…「ういろう」は、甘味料のない鎌倉時代、菓として日本に伝来。福岡市博多の臨濟宗の寺に「ういろう伝来之地」の碑が建つ。

**亀屋清永…東山区祇園石段下南にある1617年創業、宮中への出入りを許可された「禁裏御用達」の老舗。毎月16-17日は創業記念の日。